

## 映画上映会 & JICAボランティア体験談

日時：平成28年10月2日（日）13:00～17:00

場所：高松オーリーブホール

主催：JICA四国

プログラム：

- 映画上映会 「ザ・トゥルー・コスト」
- JICAボランティア体験談
  - ・青年海外協力隊 綾里佳
  - ・シニア海外ボランティア 片山正敏
- JICAボランティア募集説明会
- 個別相談



内容：

13:05～14:40 映画上映会 「ザ・トゥルー・コスト」

### <チラシから>

- ・この映画は、世界の縫製工場といわれるバングラデシュ、ダッカ郊外の縫製工場で起こったビルの倒壊事故の新聞記事がきっかけで制作されました。
- ・隆盛を極めているファストファッション業界で一体何が起きているのか。その心理を深くのぞくため、裏側を探っていきます。

### <映画の中から>

#### ○ファッション業界は

- ・昔は四季に合わせてデザインし、販売されていた。
- ・それが今では、年間52シーズン（1週間ごとに）新しいものが販売されるファストファッションの社会構造に。
- ・世界中の労働者の6人に一人は縫製作業に従事している。

#### ○コスト縮減

- ・コスト縮減が求められ、それに応じられなければ、もう注文は来なくなる。縫製工場の替わりはいくらでもあるから。
- ・5ドルで作っていたものを4ドルで作れと。4ドルで作ると「3ドルで作っているところがある」とさらなる値下げを求められる。
- ・縫製工場は職員の賃金を縮減し、建物などの安全の確保を手抜き。
- ・日当3ドルで働く縫製職員。以前は月給10ドルだった時代も。
- ・手抜きの建物にはヒビが入り、倒壊の恐れがあるのではと心配する者が出たが、放置され、ついに倒壊。千人の職員が死亡する事態に。

#### ○材料のコットン

- ・生産性の向上を求め、殺虫力のある遺伝子を組み込まれたコットンの種がメーカーから販売され。
- ・以前は、コットンの状況を見ながら個別に人力で散布していた除草剤や殺虫剤は、コットンの状況におかまいなく飛行機で一気に撒かれる。

- ・食べ物の遺伝子組み換えやアレルギーは問題視されているのに、一番大きな臓器である「皮膚」に触れる衣料の材料については無頓着。

#### ○牛皮

- ・牛皮のなめしには六価クロムが使われ、その廃液はそのまま街中に排出され、地下水を汚染、子どもの奇形にも。
- ・その作業を行う職員は、皮膚の障害や体調不良。

#### ○考えてください

- ・衣服が安く手に入るのはなぜでしょうか。
- ・誰かの利益は、他の人々を搾取することによって得られるものであっては決してならない。

14:40~15:52 JICAボランティア体験談
---------------------------

#### 14:40~15:12 青年海外協力隊 綾里佳

#### ○はじめに

- ・バングラデシュ 24年度3次隊（2013年1月~2015年1月）
- ・職種は、感染症・エイズ対策
- ・勤務条件の制限もなく、社会人1年生の私でも応募でき、医療や予防の分野で探して、応募しようと思った。
- ・川を渡るには、生活道として竹竿一本の橋を渡る必要があった。

#### ○バングラデシュ

- ・インドの東側に位置する小さな国
- ・首都はダッカ 人口1億6千万人 日本の4割の広さ出、世界一人口密度の高い国。
- ・国旗：日の丸に似ていて、日の丸の白地の部分が緑色になっているような国旗。
- ・好奇心旺盛な人がいる国。

#### ○バングラデシュの料理

- ・主食はご飯、肉、魚（海や川の魚）、野菜、豆腐など、種類が多くておいしい。
- ・ナスタ（おやつ）、食後には必ずチャ（ミルクティー）、おやつの時も必ずチャ。

#### ○バングラデシュの服装

- ・女性：サリー、ブルカ、サロワールカミューズ

#### ○任地

- ・ロッキープール県：ダッカからエアコンの無いバスで6~7時間
- ・バングラデシュ三代河川メグナ川の下流
- ・幹線道路からはずれている、大きな川の下流に位置して洪水が頻発する事が、貧しさから抜け出せない原因に。

#### ○バングラデシュの交通手段

- ・リキシャ：名前の由来は日本の人力車から
- ・

- ・バス：エアコンが無く、渋滞すると体力を消耗
- ・ノウカ（船）：木製の50人乗りぐらいの船 乾季の時は安全だが、その他の季節は危険

#### ○配属先

- ・ロッキープール県保健衛生事務所 赤ちゃんや母親への予防接種事業の支援を実施。
- ・1985年から予防接種事業が始まり、文字が読めないお母さんにもわかるように、予防接種の日を示すマーク（赤ちゃんのイラスト）がある。
- ・予防接種がルール通りに適切に行えているかを、監視、指導するのが私の役割。

#### ○活動してみても

- ・予防接種事業が始まって25年目であり、私が2代目の指導者だったので、ルール通りに予防接種が行われていると最初は感じ、自分が必要とされていないのではと思った。
- ・しかし、私が来ると言うことを聞きつけ、いつもは手を抜いているのを、その時だけ取り繕う保健員がいた。
- ・言葉がわかるようになり、「あなたを監視するために来ているのではなく、予防接種の必要性を伝える」ことを継続して伝える。
- ・私は道を造ることも、母親の子育てを手伝うことも出来なかったが、「この地域の子どもたちのために頑張ってくれている」と言ってくれる支援員さんもいてモチベーションにつながった。
- ・全ては子どもたちのために、「**子どもを守ることが出来るのは、あなたですよ**」と、母親に伝えるようにした。

#### ○成果

- ・どれだけの成果が出たのか、すぐにはわかるものではない。
- ・日本人の女性がこんなことを言っていたなあと思い出してもらい、次の世代に伝えていってもらえるものがあればいいなあ。

#### ○バングラデシュでの生活

- ・近所のお店に買い物 たわいもない話でチャ
- ・自炊だったので、買い物に。値段交渉がおっくうだったけど、しだいに会話を楽しめるようになった。

#### ○2年間を振り返り（日本に帰ってきてからの感想）

- ・訪問者ではなく、住民・仲間になりたい！
- ・意志疎通が出来るようになってくると、何でも楽しい！
- ・自分の気持ちに正直に、チャレンジ（応募）してください。

#### 15:12~15:45 シニア海外ボランティア 片山正敏

##### ○はじめに

- ・青年海外ボランティアの経験はない。
- ・シニア海外ボランティアは課題があり、成果が評価される。自分一人でやろうという日本人気質。各国にはボランティア指導員がいて「何でもみんなとやりなさいよ」とのアドバイス。

##### ○参加の動機

- ・海外生活にあこがれていた。異文化に興味を持っていた。
- ・その道に携わったスキルが、発展途上国ではまだ有用であると気づいた。 ← JICAで来ていた現地の青年に会う機会で、自分のスキルが役に立つことがわかった
- ・働く必要がなくなった。

#### ○派遣先

- ・平成22年度2次隊（2010年9月～2012年9月）パラグアイ派遣
- ・コロネル・オビエド市役所 2010年9月～2011年2月  
最終処分場（ゴミ埋め立て場）の環境管理計画の策定
- ・ミッション：ゴミ埋め立て場の環境に与える影響を評価せよ → 出てくるガスと地下水をとって評価する事を考えた
- ・環境評価に多額の予算が必要だということで、要請の中止 → 新たな受け入れ先探し
  
- ・INTN アスンシオン 2011年2月～2012年9月  
研究所であるINTNで、環境分析の補助 工場、河川等サンプルの採取、分析など C尾D、BOD・・・

#### ○現地での言語は

- ・スペイン語 自分はスペイン語はわからないので、英語で話し、リーダーにスペイン語に通訳してもらっていた。

#### ○廃水処理

- ・六価クロムを抽出して排水したい ← 牛の皮をなめすのに六価クロムを使っている
- ・日本では当たり前前の技術が活かされた。

#### ○報告会

- ・パラグアイ大使館で報告。大使館と会い、おいしい料理をいただいた。

#### <ミクロネシア>

- ・平成27年1次隊（H27年9月～H29年9月の予定だったが、体調を崩しH28年3月に帰国）
- ・小さな島国のため、フレッシュな牛乳や野菜は届かず、食物が十分でなく、尿酸値があがり痛風に。
- ・私は3代目。福岡式最終処分場を1代目が設計、2代目が施工、3代目の私は運営・管理。
- ・コウモリも現地ではよく食べる。

#### ○心がけていたこと

- ・上から目線でカウンターパートに接しないこと。
- ・カウンターパートと十分な協議（意志疎通）ののちに行動を。
- ・たまにはカウンターパートを家にも招待すること。
- ・蚊にさされないように デング熱とマラリア
- ・誰かがどこかで自分を待っている。
- ・日本がスタンダードというわけではなく、様々な考え方がある。

- ・改めて日本がもっとも住みやすいと感じた。 ← 郵便制度が無く、郵便は、郵便局まで自分で取りに行かないといけない。
- ・健康が一番大切。

#### ○シニアボランティアとは

- ・人生の最終ステージであると同時に**生きた証を確認する場**である。

#### 15:45~15:52 質疑

女性Q：必要とされていないのではと思ったときがあるとのことだったが、その時にはどうやってモチベーションを。

綾A：同時期に来た日本の隊員に相談したり、現地の友人の所で気分転換をしたり、相談をした。「バングラデシュの習慣はこうだから、仕方ないよ」とのこと。活動のことで相談するのは同僚かな。

男性Q：J I C Aのパンフレットや説明を受けて現地に入ったと思うが、実際に行ってみて活動してみて、これはもっと備えておけば良かった、こんなことをしておけば良かったということがありますか。

片山A：語学 シニアボランティアでは35日しか研修はないので。語学をしっかりと。

綾A：マイナーな言語もあるので、50音とかの文字、読み方、基本的な挨拶を覚えておくことが大切。基本となることを覚えると、あとは少しずつ語彙は増えていく。体調 医療機関にかかることが難しいので、自分の体調をちゃんと管理できること。

#### 15:52~16:00 休憩

#### 16:00~16:40 僕たちに出来ることは必ずある！ J I C A ボランティア募集説明会

##### ○事業概要

- ・年齢、内容により4つに区分。派遣期間は原則2年間。
- ・現地の政府機関、地方自治体、学校や機関へ派遣。
- ・51年目
- ・香川からは累計338名、現在16名派遣中。

##### ○支援体制

- ①現職参加制度あり：人件費補填制度、所属先推薦制度（一次審査が免除になる制度）
- ②合宿形式で事前研修：青年70日、シニア35日 現地で使う語学の習得、異文化理解
- ③費用：往復渡航費、現地生活費、国内手当での支給
- ④安全管理：日本人スタッフが常駐（24時間連絡が付く）、住居（治安などを確認しながら決める）、安全面のサポート（安全情報の提供、携帯電話の貸与など）
- ⑤けがや病気：派遣前訓練、健康管理支援体制（現地に日本人看護師）、活動中のケガ・病気への支援（保険に入ってから派遣）
- ⑥帰国後の進路：学費等の一部補助、・・・

##### ○帰国ボランティアの就職状況

- ・バイタリティがあり、コミュニケーション能力の高いJ I C Aのボランティアには、多くの求

人がある。

○応募から派遣

- ・ 11月4日必着 応募
- ・ 一次選考 書類選考 ← 用紙に溢れんばかりの思いを書き込んでください
- ・

○職種・要請の選択

- ・ 職種、要請一覧から選択 職種別に分類されている。
- ・ 青年 応募する職種を1つ決める。要請を3つまで選ぶ。
- ・ シニア要請は2件までしか書けないが、二つの異なる分野の要請を選べる。

○健康診査

- ・ 応募事問診票を提出。一次選考合格者に健康診断を受診。

**11月4日必着です。**

○短期ボランティア

- ・ 次回の募集は10月11日～11月24日
- ・ JICAのホームページから見てください。

**16:20～17:20 個別相談**

- ・ 教育、医療、工業、農業などに別れて個別相談です。

—以上—